

地域資源の復興や再生について考えてみませんか？

## 公開シンポジウム「**地域資源の Resilience**」

### **ポイント**

- 👉 「Resilience (レジリエンス)」 = 「回復力」(復興・再生)
- 👉 山口県内の**文化芸術活動**の分野で活躍するキーパーソンが参加
- 👉 伝統工芸や地域固有の文化にまつわる「Resilience」の事例について紹介

本学大学院 国際文化学研究科の講義「文化コーディネート論」では、地域のオピニオンリーダー、地域文化のキーパーソンあるいは活性化の推進者などを授業に招き、コーディネーター役の教員とともに文化創造に関する理論と事例などを用いて、グループでの実践的な研究を行っています。

今回は「Resilience」をテーマに、地域で展開されている復興・再生活動について公開シンポジウムを開催します。皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しください。

### **文化コーディネート論 公開シンポジウム** **「地域資源の Resilience」について**

【日時】 7月24日(水) 18:30~20:00

【場所】 山口市菜香亭(山口市天花1-2-7)

【内容】 シンポジウム出席者

パネラー： 斎藤 郁夫(山口県立美術館学芸参与)  
片山 涼子(アトリエ a.p.r 主宰、服飾デザイナー)  
伊藤 慎一(なごみスタイル オーナー)  
「文化コーディネート論」受講生

コーディネーター： 水谷 由美子

(本学大学院 国際文化学研究科 教授)



▲昨年度の様子

#### 【公開シンポジウムに関するお問い合わせ】

〒753-8502 山口市桜島3丁目2-1

山口県立大学大学院 国際文化学研究科 教授 水谷 由美子 (みづたに ゆみこ)

TEL&FAX: 083-928-3423 Email: myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp

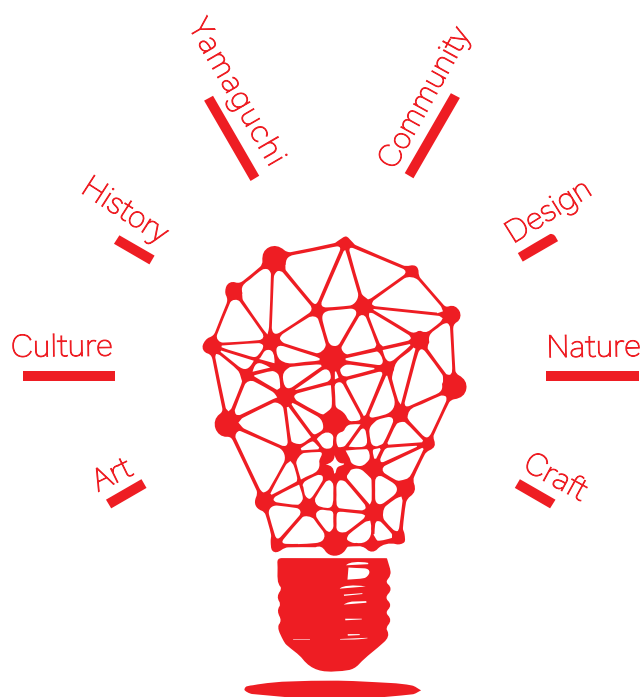
#### 【本件ニュースリリースに関するお問い合わせ】

経営企画部企画グループ 担当: 新造 (しんぞう)

TEL: 083-928-3417 FAX: 083-928-3464 Email: rshinzo@office.yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学大学院 国際文化学研究科  
2019年度 第3回 山口国際文化学会

# 地域資源の Resilience



文化コーディネート論 公開シンポジウム

入場無料

2019 . 7 . 24 Wed.

開場・展示 18:00～ 開演 18:30～20:00

会場 山口市菜香亭 (山口市天花 1-2-7)

パネラー

斎藤 郁夫 (山口県立美術館学芸参与)

片山 涼子 (アトリエ a.p.r 主宰、服飾デザイナー)

伊藤 慎一 (なごみスタイル オーナー)

文化コーディネート論 受講生

コーディネーター

水谷 由美子

(山口県立大学大学院 国際文化学研究科 教授)

主催：山口県立大学大学院 国際文化学研究科  
協力：山口市菜香亭

## 「地域資源の Resilience」

### シンポジウム プログラム

2019年7月24日(水)

会場：山口市菜香亭

開場・展示 18:00 ~ 開演 18:30 ~20:00

#### 「たこつばまつり〜いい汗かいて食べて、思い出発掘〜」

辻本 梨紗 雍 啓陽 王 曾芝 / 国際文化学研究科1年  
防府市末田地区には有形民俗文化財「末田の窯業生産工房及び登り窯」がある。かつては蛸壺の生産は盛んだったが、生産者の高齢化、担い手不足さらにプラスチック生産への転化などの影響で、陶器の蛸壺生産は減ってきた。そんな中、田中窯業(多幸窯)を県外から来た久野公寛氏が継承した。多幸壺の普及や地域の活性化のお手伝いをすることを目的とした実践的研究として、久野氏および焼き物保存会の協力を得て、「たこつばまつり」を開催しその結果と成果を報告する。

#### 「“大内人形ちょうちん” ワークショップについて」

王 喆 田村 奈美 林 省一 / 国際文化学研究科1年  
山口ふるさと伝承総合センター等の協力をいただき、柳井市の“金魚ちょうちん”の製作方法をヒントに、山口市の伝統工芸品である大内人形をモチーフとした“大内人形ちょうちん”製作ワークショップを行う。このちょうちん製作は、山口市の大殿地区で実施されている“つながる大殿七夕ちょうちんの灯”への提案と位置づけ、来年以降も製作を継続して大殿地区の古い家屋の軒先に掲げることによって、気軽に大内人形を感じてもらえるきっかけとなることを期待するものである。

#### 【アクセス】

山口市菜香亭

〒753-0091 山口市天花1-2-7

TEL: 083-934-3312

<https://www.c-able.ne.jp/~saikou/>



日本各地の地域資源である伝統工芸は、工業化や他産業への人材流出さらに安価な商品の普及によるライフスタイルとそれにもなう価値観の変化によって、身近なものなく特別な存在になっています。

しかしながら、AI や IoT 到来の時代だからこそ、年配者だけでなく若者たちが、人間の手業によって生み出されてきた伝統工芸や地域固有の文化活動へ関心を寄せ始めています。

山口県内においても例外ではなく、地域内外の人々による芸術文化活動によって Resilience (回復力) が浮揚され、地域資源の新たな復興や再生に向けた活動が地域の多くの場所で確認できるようになってきました。

今回は各パネラーから地域における活動の事例を紹介頂き、フロアーの皆様のご意見もお伺いしながら、山口における地域資源の Resilience について考えてみたいと思います。

皆様、お誘い合わせの上ご来場下さい。

(「文化コーディネート論」担当：水谷由美子)

#### 「文化をコーディネートすること」

齋藤 郁夫 / 山口県立美術館学芸参与

「文化芸術基本法」で紹介されている文化的なものの内容は、芸術はもちろん伝統芸能、生活文化、国民娯楽まで含むたいへん幅広いものである。それらすべては「生きている様式」とでもいえるようなかたちをもつものである。若干の実例を紹介しながら、生きている様式としての文化をコーディネートすることの意味を考える。

#### 「服飾デザインによる地域への恩返し」

片山 涼子 / アトリエ a.p.r 主宰、服飾デザイナー

服飾デザインが地域活性化に繋がることを目指し、自身が取り組んできた事例を具体的に挙げる。観光施設での利用を目的とした衣装デザイン制作や、山口市大殿地区でのファッションショーの運営、イベント企画や商品開発などについて紹介する。

服飾分野における自身にとっての「文化コーディネート」とは何か、この機会に改めて考えてみようと思う。

#### 「山口アーツ&クラフツとの14年」

伊藤 慎一 / なごみスタイル オーナー

2005年に山口市内に「クラフトギャラリー nagomi style」を構え、2006年より山口アーツ&クラフツを主催している。元々うつつの店としてスタートしましたが、防府市の陶芸作家の助言により、日本のクラフトフェアの草分け的存在の「クラフトフェアまつもと」を見に行き大きな衝撃を受け、それを機にクラフト全般を扱うようになった。そして若手作家の作品の発表、販売の場所をとる思いから「山口アーツ & クラフツ」を立ち上げた。

#### 【お問い合わせ】

山口県立大学 〒753-8502 山口県山口市桜畠3-2-1

・国際文化学部事務室(担当:水谷) TEL: 083-928-3423

E-mail: myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp

・山口県立大学大学院 事務室 TEL: 083-929-6525